

台風による山崩れ

9月は台風が多く襲来する季節です。台風により大雨、暴風、高波、高潮に伴う被害が発生するほか、豪雨が続く時には山崩れなどの土砂災害が起こることもあります。愛媛県今治市と高知県土佐市の例をご紹介します。

■昭和51年台風17号による山崩れ（愛媛県今治市）

昭和51年（1976）9月8日から13日にかけて、大三島町（現今治市）は台風17号に襲われました。9月1日から6日間降り続いた381ミリの豪雨と、13日正午頃の台風通過時に吹いた南西の暴風のため、町内各地で被害が続出し、被害額は4億7,700万円にのぼりました。台海岸では護岸が約80m崩壊し、付近の住家は高波をまともに受けました。風当たりの強い地区では、農作物が高波をかぶり、みかんや刈り取り間近の稲穂が傷つき倒れ、多くの被害が出ました。また、この台風で山崩れが起こり、御串山の阿奈波（あなば）神社では本殿が押しつぶされ、拝殿が半壊しました。〈大三島町誌編纂会編「大三島町誌一般編」1988年〉



■昭和50年台風5号による山崩れ（高知県土佐市）

昭和50年（1975）8月17日の台風5号は、土佐市に最大時間雨量117ミリ、24時間雨量550ミリという記録的な豪雨をもたらしました。鳴川、天崎、末光で山崩れが起こり、用石堤防が決壊するなどして市内一円にわたって浸水被害が出ました。被害は死者6人、重軽傷者74人、家屋の全半壊98戸、床上浸水2,255戸、床下浸水2,100戸などで、被害額は138億9,400万円に及びました。山崩れなどにより大きな被害を受けた鳴川では、住民が一致協力して災害復旧に取り組むとともに、災害の教訓を後世に伝えるために、災害から6年後の昭和56年8月に台風5号災害碑を建立しました。〈土佐市史編集委員会編「土佐市史」1978年、鳴川の台風5号災害碑など〉

